



新任の挨拶



所長 片山 恒雄

このたび、植原前所長の後任として東京大学生産技術研究所から転任して参りました。私の専門は土木工学ですから、東京大学での約25年間は都市防災やライフラインの研究を中心に行なっておりました。新職場は大学とは予算的にも内容的にもまったく違うところなので、現在、研究所の研究内容を含め毎日が勉強です。

昨年の阪神・淡路大震災までは、都市防災の研究者として、地震国である日本では、耐震設計を考慮して建設された構造物（高速道路・橋・建物等）は強いと確信をしていました。しかし、現実には、これまで耐震工学の科学者や技術者が考えていたものとは、ずいぶん大きな違いがあったのではないかと痛感しております。ひとたび大地震が発生すると都市機能には重大な影響を与えますが、大地震を事前に防止することはもちろん、予知す

ることも現時点では不可能に近いと思っています。

これからの都市工学で考えねばならぬ事は、大地震発生時に人命と個人の財産をいかに守るか、次に現在の都市機能を維持しているライフラインをできるだけ早急に完全復旧させていくことだと考えます。

防災科学技術研究所は、地震・火山災害だけではなく、雪氷災害、風水害・地滑りなど広範囲な分野の研究を行なっており、研究者が研究に落ち着いて打ち込める環境作りを考えていきたい。また、どんなに優れた研究所でも、世の中にその存在を知られなければ意味がないと思っており、東京大学生産技術研究所時代からモットーとしていた、ビジブル（世の中に見える）・キャンディット（素直である）・シンシア（誠実）を、これからも実行していきたい。

筑波研究学園都市は研究環境としては非常に恵まれた都市であり、この地の利を活かした場所で、すぐれた研究者と交流する機会を与えてもらったことは、私にとって大きな喜びと申さずにいられません。

これから、研究所及び研究の進展に邁進する所存ではありますが、関係各位のご支援ご協力をお願いし、私の挨拶とさせていただきます。